



横浜労災病院

TEL : 045-474-8111

当院ホームページ QRコード

「治る膵臓がん」を目指す - 膵臓がん早期診断の要として

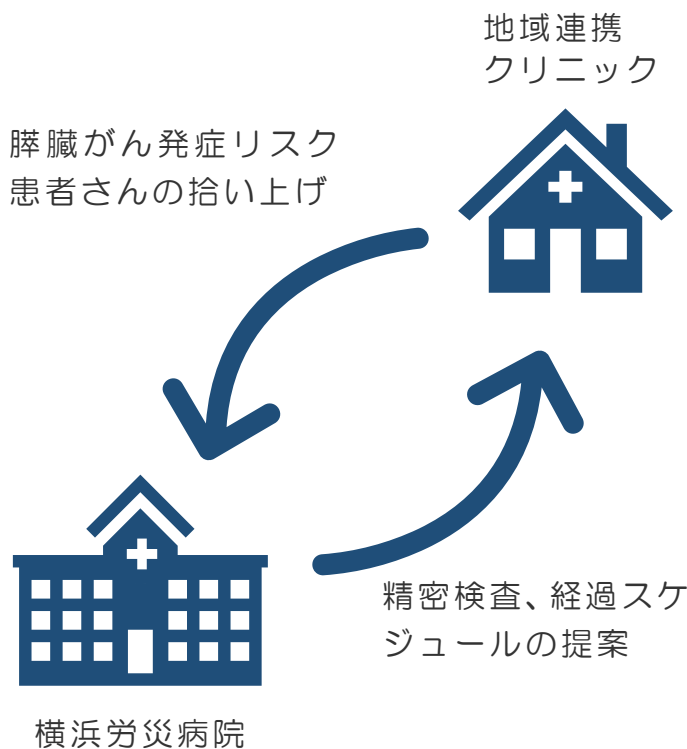
こんにちは。横浜労災病院 消化器内科の関野 雄典(せきの ゆうすけ) と申します。

当院の消化器内科では、膵臓がんや胆道がんの早期診断に力を入れています。特に膵臓がんに関しては病診連携を通して「横浜労災病院膵臓がん早期診断プロジェクト」を発足し、これまで困難であった膵臓がんの早期診断を目指してきました。これを可能にするのは、地域のクリニックの先生方の「膵臓がんリスク」のご理解と当科へのスムーズな連携によるものであると大変感謝しています。今回は膵臓がん診断の実際を交えて、地域の先生方との連携の重要性についてご紹介いたします。



関野 雄典
消化器内科部長

膵臓がん早期診断プロジェクト



3年生存率において、膵臓がんは全体で15.1%と最も低く、予後は非常に厳しいことが報告されております。膵臓がんの治療成績が上がっていない最大の原因は早期発見の難しさです。2007年に日本膵臓学会から報告されたStage0の5年生存率は85.8%であり、早い段階での診断が予後の改善の最大の鍵ですが、膵臓がんは発症早期においては無症状であること、膵臓が後腹膜に位置し、周囲臓器や脈管へ浸潤しやすいことなどが要因となり、Stage0の患者は全体の1.7%と早期診断は容易ではありません。

そこで、当科では「膵臓がん早期診断プロジェクト」運用しています。このプロジェクトは地域の先生方との病診連携を通して、膵臓がんを疑うサインが発見された場合に、直ちに精密検査を行って適切な診断を行うものです。

超音波内視鏡検査（EUS）検査の推移

時期	診断時病期					手術可能 症例割合
	0期	I期	II期	III期	IV期	
COVID-19流行「前」 (2019/4~2020/2)	2名	7名	14名	5名	22名	52%
COVID-19流行「1年目」 (2020/3~2021/2)	0名	0名	16名	13名	17名	30.4%
COVID-19流行「2年目」 (2021/3~2022/2)	1名	4名	19名	5名	25名	46.3%

当院では、膵臓がんを疑うご紹介を頂いてから、基本的に1週間以内にEUS診断を行う体制を取っております。一般的に手術可能である診断病期0~II期の割合は20%未満とされていますが、スピーディーかつ質の高いEUS診療の実現により、当院での診断成績は2021年度で約45%と標準より早期の診断を達成しています。

人間ドックに膵臓がんオプション検査を用意

糖尿病増悪や腫瘍マーカー上昇などの方は、当院初回診療時に異常がなかった方でも再度ご紹介いただいても構いません。膵臓がん家族歴でご紹介いただき、初回診療時にEUS検査を含めて異常がなかった方など、保険診療で定期的なEUS検査を行う対象にならない方に対しては、自由診療での定期検査も対応いたしますが、当院では健診部での人間ドックに膵臓がんオプション検査を用意しています。膵臓専門医が背景リスクを含めたレポートを作成しておりますので、こちらの利用も検討していただけますと幸いです。



人間ドックのご案内

最後に

「治る膵臓がん」を達成するためには、地域の先生方からの患者さんの拾い上げと私たちとのスムーズな病診連携が必要不可欠です。

患者さんごとに膵臓がんリスクを評価し、診療スケジュールの立案とかかりつけの先生方へのフィードバックを通して、多くの膵臓がん患者さんに貢献できるように、これからも努力して参ります。

